

産学協力研究委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開第 189 委員会」
平成 28 年度 第 4 回幹事会 議事抄録

日時：平成 29 年 3 月 1 日（水）14:00-18:00

場所：石原産業㈱ 本社ビル 5F ホール

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-3-15

出席者：長田裕之（理化学研究所）、穴澤秀治（バイオインダストリー協会）、浅見忠男（東京大学）、阿部圭一（サントリーグローバルイノベーションセンター㈱）、上村大輔（神奈川大学）、遠藤正志（㈱LSI メディエンス）、掛谷秀昭（京都大学）、永野栄喜（住友化学㈱）、町谷幸三（日本農薬㈱）、横田博之（アステラス製薬㈱）、吉田 稔（理化学研究所）

事務局：大高潤之介（理化学研究所）、山口直美（理化学研究所）

（学界委員 8 名 産業界委員 5 名）

【議事】

1. 前回 第 3 回（平成 28 年 12 月 7 日）議事抄録【資料 1】の確認。

2. 各種委員会報告

・編集委員会【資料 2】

長田委員長より特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）「ケミカルバイオロジーの発展に貢献してきた化合物」に関する編集会議の報告がされた。

Springer Nature 出版の “Bioprobes: Biochemical Tools for Investigating Cell Function” を参考にして、刊行物（書籍）を作成すること、刊行物は全体で 300～400 頁、100 化合物を掲載し、日本語で出版されることが報告された。

3 月中に執筆依頼を出す予定であることが報告された。

・プログラム委員会【資料 3】

来年度の研究会発表者について、横田プログラム委員より報告がされた。

過去の発表履歴を参考に、年間の発表者を決定し、変更等は委員間で調整後にプログラム委員に報告してもらうこととした。代理出席・代理発表も可能とすることが決定された。

要旨提出については、当日配布は任意とし、年報報告の際には掲載できるように所属先で審議してもらうこととした。（産業界においては社内稟議 2 カ月程度必要）

特別講演講師について、浅見プログラム委員長より報告がされた。

第 3 回定例 幹事会（2016 年 12 月 7 日）にて候補に挙がった下記 3 名に順番に打診することが決定された。

候補 1 日本 IBM 株式会社 ワトソン事業部ヘルスケア事業開発部長 溝上敏文 氏

内容：人工知能について 東大医科研究で診断に利用されている IBM WATOSON

候補 2 三井化学株式会社 シニアリサーチフェロー 藤田照典氏

内容：触媒科学・将来の化学原料

候補 3 科学技術振興機構(JST) 研究開発戦略センター(CRDS)

海外動向ユニット 上席フェロー 林 幸秀氏

次回、平成 29 年度 第 1 回定例会の特別講演候補者については、長田委員長より日本 IBM 株式会社の溝上氏に打診することが決定された。

溝上氏の都合が悪い場合も、講演内容は「人工知能」とし、別の候補を探すこととした。

3. 平成 29 年度の活動について【資料 4】

学界、産業界の繁忙期を考慮の上、下記候補日で調整することとした。

第 1 回定例会（東京開催）

5 月 10 日（第一候補）、17 日（第二候補）5 月 2 週 3 週で調整する。

参考情報：6 月 20 日以降は株主総会

第 2 回定例会（1 泊開催）

10 月 4 日～5 日（第一候補）

北里柴三郎生家（熊本）訪問、北里一郎先生にお声掛けする。

第 3 回定例会（東京開催・合同開催予定）

12 月 20 日（第一候補）その前後で調整する。

ゲノムテクノロジー第 164 委員会（油谷委員長）に確認する。

第 4 回定例会（関西開催）

3 月 7 日、14 日で調整する。

4. 新規会員について【資料 5】

学界員 山口 直美（理化学研究所 環境資源科学研究センター ケミカルバイオロジー 研究グループ アシスタント）を事務局担当として新規入会を認め、委員会に諮ることとした。

5. その他

・旅費精算について【資料 6】

旅費規程及び精算必要書類について、JSPS 事務局からの追加事項が報告された。

① 交通費について

【新幹線利用の場合】添付資料：必要なし

【航空機利用の場合】添付資料：(1) 領収書は往復経路・片道毎金額が記載。

航空会社 HP よりプリントアウトした書式が望ましい。

(2) 搭乗証明書 半券の提出の必要はなし。

★代理店等で購入の場合は、手数料を差し引いての精算となる。

・第 189 委員会運営内規【参考資料】

庶務幹事は委員会承認後、事務局担当の山口委員とすることとした。

・今後の活動について

上村委員より、産学協力研究委員会の設置期間更新に際し、女性・若手・企業参加についての状況が審議される為、産業界の希望を組めるような活動を工夫する必要があるとの提案がされた。政府内で議論されている内容を委員会内で共有することも検討していくこととした。

産業界の希望については、産業界員でプログラム委員の横田委員が会員へヒアリングすることが決定された。

国際シンポジウム開催については、特別事業（知識や技術の伝承等とりまとめ）が終了後に、JSPS 事務局へ助成申請をすることとなった。

会場は前回候補となった奈良ホテルで、レドックス・ライフイノベーション第 170 委員会（名古屋大学 内田浩二委員長）との合同開催も検討することとなった。

文責：山口（事務局）